

NEC iStorageシリーズ iStorage NS47P

1

本製品について

本装置の各部の名称やその機能、特長について説明します。

「本製品の紹介」(2ページ)

本製品の紹介とその特長、機能について説明します。また、添付のDVD-ROMやCD-ROMと代表的なバンドルソフトウェアについて説明しています。

「各部の名称と機能」(10ページ)

本体の各部の名称と機能についてパーツ単位に説明しています。

「基本的な操作」(20ページ)

電源のONやOFFの方法、およびディスクのセット方法、クライアントマシンから本装置へのアクセス方法などについて説明しています。

本製品の紹介

本製品について紹介します。

主な特長と機能

本装置はネットワーク上のクライアントPCが利用するさまざまなデータやデータベースをハードディスクドライブに格納することにより、資産の共有化と一元管理化を目的としたネットワークファイルサーバです。

- **Network Attached Storage (NAS)**

NASとは、既存環境に対する変更を加えることなく、大規模ストレージシステムを提供するネットワーク接続型ストレージに特化したアプライアンスサーバです。

一般的にNASは非常に導入が容易です。ユーザーはNASをネットワークに接続し、電源を投入し、最小限のセットアップを行うだけで運用を開始することができます。

通常業務は、クライアントからリモートデスクトップを利用して行います。

- **高速なファイルサービス**

ファイルサービスに最適化した専門設計により、高コストパフォーマンスを実現します。

- **高い処理性能**

- ー NAS (Network Attached Storage) サーバとしての性能向上に必要な機能のみを実装したスリムな専用サーバ

- ー ファイルアクセスの性能をチューニングし、優れたパフォーマンスを提供

- ー マルチプロトコルに対応

- **容易なシステムの導入と設定**

CIFS (Windows)、NFS (UNIX)、AppleTalk (Apple Macintosh) ベースの混在するネットワーク環境に設定から稼働まで約10分で導入が可能です。

- **高い運用管理能力**

システム運用管理ソフトウェアESMPROで他のサーバ、ワークステーションと連携し、稼働状況の遠隔管理も可能です。

- **マザーボードのRAS機能**

マザーボードはRAS (Reliability: 信頼性・Availability: 可用性・Serviceability: 保守性) を考慮した設計で高い耐障害性を提供しています。

システムのハードディスクは4台でRAID5 (データおよび冗長データのストライピング) のディスクアレイで構成されています。万一、一台のハードディスクドライブが故障しても、残りのハードディスクドライブで運用を続けることができます。また、ハードディスクドライブはホットスワップで交換できます。

- **拡張性**

ハードディスクドライブやメモリ、各種PCIカード、内蔵型バックアップファイルデバイスなど多種多様な内蔵オプションデバイスを搭載することができます (ハードディスクドライブは出荷時の状態でフル装備となっています)。

- **管理機能**

- ー iStorage NS連携モジュール

ESMPRO/ServerManagerがインストールされているコンピュータで使用するにより、本装置を管理するためにリモートデスクトップを起動することができます。

- ー システム運用管理ソフトウェアESMPROとの統合

ESMPRO/ServerManagerによる一元管理や稼働状況の遠隔監視が可能になります。

- ー ディスクアレイ管理ソフトウェアによる運用・管理

本装置ではシステム・データディスクともWeb-based Promise Array Manager (WebPAM)を使用して管理します。WebPAMによりRAIDの運用・管理を一元化し、稼働状況の遠隔監視もできます。このユーティリティはESMPROとも連携しています。

- ー エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスをお申し込みいただくことで、管理センターからの遠隔管理が可能になります。

- ー リモート管理

本体標準装備のEXPRESSSCOPEエンジンと「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMに収められているアプリケーション「DianaScope」を使用することにより、LAN/WANを介した本体のリモート監視や管理をすることができます。

EXPRESSSCOPEエンジンがサポートする、Webブラウザを使用したリモート制御やリモートKVM機能、リモートデバイス機能については「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROM内の「EXPRESSSCOPEエンジンユーザズガイド」を参照してください。

- **ファイルサーバ機能**

- ー マルチプロトコル対応

CIFS、NFS、FTP、HTTP、AppleTalkのマルチプロトコルに対応。WindowsやUNIX、Linux、Apple Macintoshなどが混在する既存のネットワーク環境に設置するだけで簡単にそのネットワーク環境での記憶容量を拡張することができます。

- ー ファイルアクセス制御

ファイルシステムにNTFSを使用しているため、ファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

RAID構成を変更して再インストールする場合のロジカルドライブのサイズについて

本装置でRAID 構成を変更して再インストールする場合は、必ずOS 領域として30GB(30720MB)のロジカルドライブを作成し、残りをデータ領域としてください。再インストールの詳細については、7章を参照してください。

電源制御機能の使用について

本装置には電源制御機能をサポートしていないアプリケーションが含まれています。スタンバイ/休止状態で運用しないでください。

修正モジュールについて

システムのリビジョンアップや修正モジュールの適用は、弊社が指定するものを弊社の指示に従って適用する必要があります。マイクロソフト社が一般に公開している修正モジュールをマイクロソフト社の指示に従って適用することはできません。システムのリビジョンアップや修正モジュールの指示は、以下のURLまたはPP・サポートサービス^{*1}にて公開しています。

<http://nec8.com/>

^{*1} PP・サポートサービスでは、上記URL では公開していない最新の修正モジュールを入手することができます。ご契約については、販売店にご確認ください。

添付のディスクについて

本装置には、セットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやDVD-ROMが添付されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用途について説明します。



添付のディスクは、システムのセットアップが完了した後も、システムの再セットアップや保守・管理の際に使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

● iStorage NS47PバックアップDVD-ROM

システムのバックアップとなるDVD-ROMです。再セットアップの際は、このDVD-ROMから本装置へソフトウェアをインストールします。詳細は「ソフトウェアの再インストール」（180ページ）を参照してください。



購入時のハードディスクドライブには、本装置に必要なOSやモジュール、コンポーネント、管理用アプリケーションがすべてインストール済みです。運用開始時は、LANポートにケーブルを接続して電源をONした後、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMの「初期設定ツール」を使用して、簡単にセットアップができます。

DVD-ROMの中にはおもに次のOSやコンポーネント、モジュール、アプリケーションが格納されています。これらは、再セットアップの際に自動的にインストールされます。

- Microsoft Windows Storage Server 2003 OSと本装置に必要な関連モジュール（サービスパックを含む）
- Service for UNIX（UNIX環境との接続に使用するモジュール）
- Service for Macintosh（Macintosh環境との接続に使用するモジュール）
- シャドウコピー（即時データ複製を可能にするアプリケーション）
- ESMPRO/ServerAgent（管理用統合アプリケーション）
- Web-based Promise Array Manager（ディスクアレイ管理用アプリケーション）
- エクスプレス通報サービス（保守用アプリケーション・利用には別途契約が必要です。）
- その他、専用デバイスドライバや専用モジュール

● 「EXPRESSBUILDER (SE)」 CD-ROM

本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。このCD-ROMには各種ソフトウェアが格納されており、その用途に合わせて使用されます。

CD-ROMはWindows 2000/XP/2003が動作しているコンピュータのCD-ROMドライブにセットすると、自動的にメニュー（マスターコントロールメニューと呼びます）が起動します。メニューからは、Windows 2000/XP/2003で動作する次のようなソフトウェアの実行やインストールをすることができます。

- － 初期設定ツール
- － ESMPRO/ServerManager



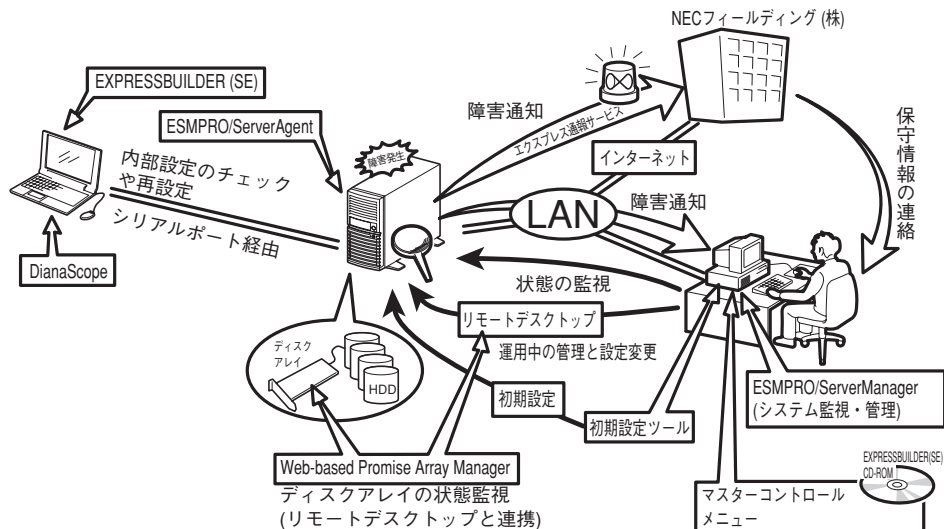
システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMの次のファイルをエクスプローラなどから実行してください。

<CD-ROMドライブレター>¥MC¥1ST.EXE

CD-ROM を本体の DVD-ROM ドライブにセットして CD-ROM から起動すると、EXPRESSBUILDER (SE) による本体の保守・管理をすることができます。

管理アプリケーションの用途

添付のディスクに格納されている管理アプリケーションの用途について簡単に説明します。



ESMPRO

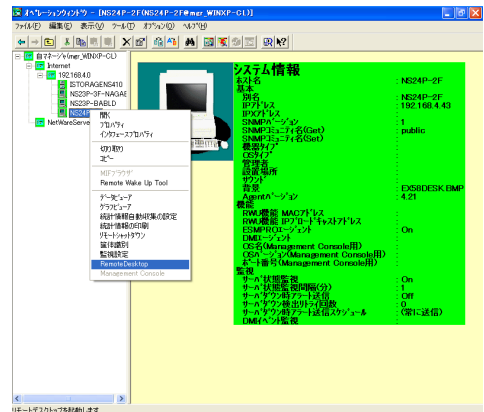
「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。

リモートでシステムの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

本装置を運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

詳細は「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」(45ページ)を参照してください。

本装置を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」は「iStorage NS47P バックアップ DVD-ROM」に、本装置を管理するためのソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」は、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに格納されています。ESMPRO/ServerAgentはあらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。



ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の「ESMPROシステム構築ガイド Ver.2.0 (UL9005-201)」を参照してください。この説明書はESMPRO製品をシステムで活用するためのガイドです。

また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、ストレージ管理を行う専用のアプリケーション (ESMPROプロダクト) が用意されています。ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

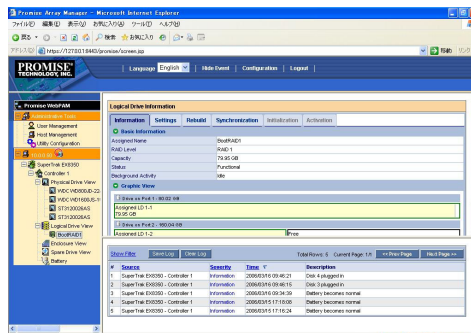
iStorage NS連携モジュール

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている環境にiStorage NS連携モジュールを適用することで、ESMPRO/ServerManagerよりリモートデスクトップを起動することができます。

Web-based Promise Array Manager

SATA2 ディスクアレイコントローラ専用 Web-based Promise Array Manager(以下、「WebPAM」と呼ぶ)は本装置に標準搭載されたPromise社製のSATA2ディスクアレイコントローラによって構築されたRAIDシステムを管理するためのユーティリティです。

WebPAMを使うことにより、本装置上のRAIDシステムについて、ロジカルドライブの作成、リビルドや監視などを行うことができます。本装置のハードディスクドライブはディスクアレイを採用しているため、万一のハードディスクドライブの故障によるデータの消失を防ぐことができますが、本装置を運用する際は、WebPAMを利用して、万一のトラブルから故障したハードディスクドライブを交換して、ディスクアレイを正常な状態にいち早く復旧させるよう心がけてください。



Web-based Promise Array Managerはあらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

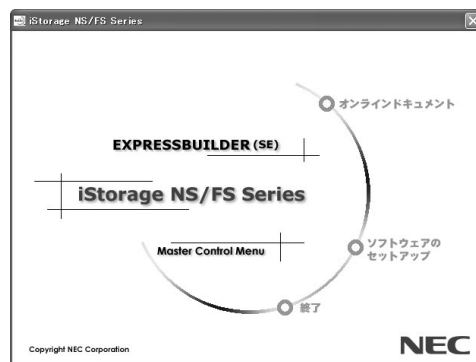
EXPRESSBUILDER (SE)

本装置の保守をする際に使用します。詳細は「EXPRESSBUILDER (SE)」(63ページ)を参照してください。



マスターコントロールメニュー

「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMをWindowsマシンのCD-ROMドライブにセットすると自動的に表示されるメニューです（44ページ参照）。このメニューからWindowsマシン上で動作する本装置の管理ソフトウェアのインストールやソフトウェアの操作などが記載された説明書（オンラインドキュメント）を参照することができます。



初期設定ツール

本製品のセットアップする時に使用するツールです。このツールを使ってコンピュータ名やネットワークの設定をします。詳細は「初期設定」（37ページ）を参照してください。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに格納されています。



エクスペレス通報サービス

エクスペレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスペレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス（DMITOOl）を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス（PC通報連携機能）を提供しています。



エクスペレス通報サービスの利用には別途契約が必要です。

エクスペレス通報サービスは「iStorage NS47PバックアップDVD-ROM」に格納されています。あらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

DianaScope

リモート（LAN接続またはクロスケーブルによるダイレクト接続）で管理PCから本装置を管理したい時に使用するソフトウェアです。詳細は54ページを参照してください。

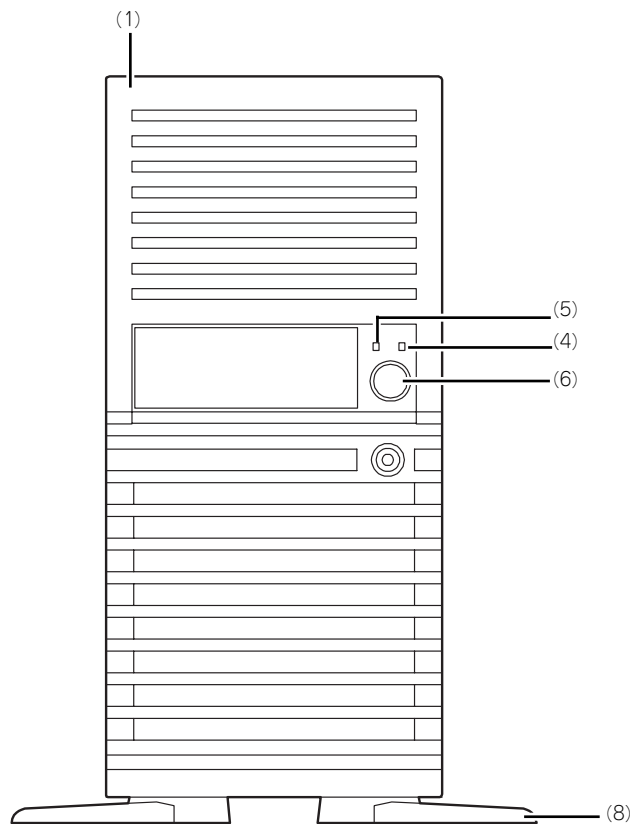
各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。

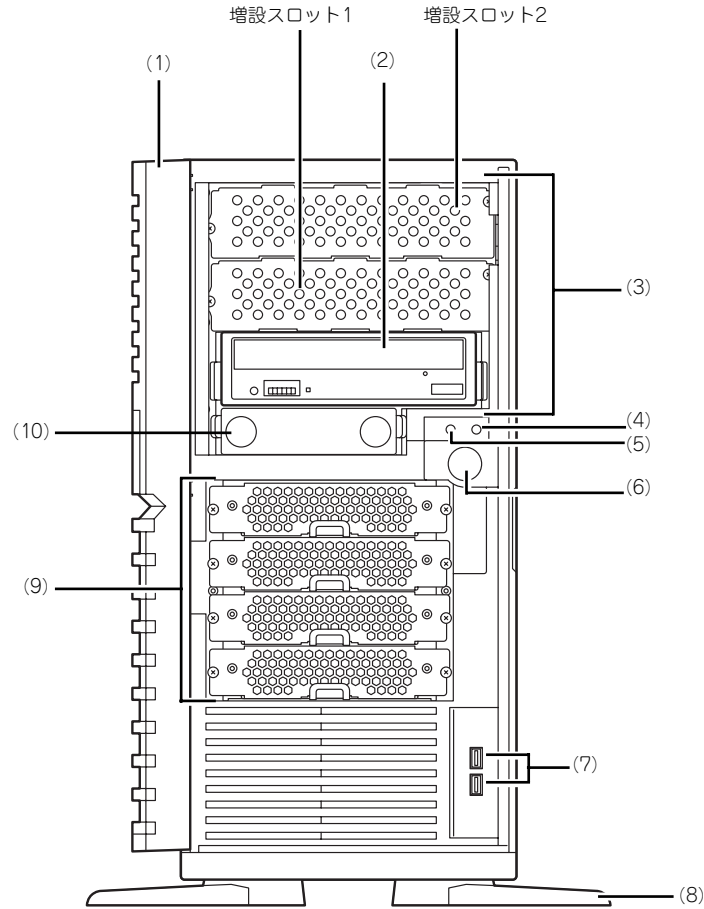


ここで示していないスイッチやコネクタは使用しません。使用すると故障の原因となります。

本体前面



<フロントベゼルを閉じた状態>



<フロントベゼルを開いた状態>

(1) フロントマスク

装置前面を保護するカバー (→82ページ)。

(2) DVD-ROMドライブ

セットしたディスクのデータの読み出し (または書き込み) を行う (→25ページ)。

ドライブには、トレイをイジェクトするためのオープン/クローズボタン、ディスクへのアクセス状態を表示するアクセスランプ (アクセス中はオレンジ色に点灯)、トレイを強制的にイジェクトさせるための強制イジェクトホールが装備されている。

(3) 5.25インチデバイスベイ

幅が5.25インチあるオプションのDATドライブやMOドライブなどを取り付ける場所 (→99ページ)。DVD-RAMドライブや内蔵AIT(IDE)を取り付ける場合は、一番下のベイに実装してください。その際にDVD-ROMドライブは増設スロット1に移動させてマスタ接続してください。

(4) DISKアクセスランプ (緑色)

本体内蔵のハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯する (→18ページ)。内蔵ハードディスクドライブをオプションボードに接続している場合は装置に添付のLEDケーブルを接続することにより点灯する (→90ページ)。

(5) POWER/SLEEPランプ (緑色)

電源をONにするときと緑色に点灯する (→20ページ)。省電力モード中は緑色に点滅する。

(6) POWER/SLEEPスイッチ

本体の電源をON/OFFするスイッチ。一度押すと緑色に点灯し、ONの状態になる。もう一度押すとOFFの状態になる (→20ページ)。

OSの設定により省電力 (スリープ) の切り替えをする機能を持たせることもできる。設定後、一度押すと、緑色に点滅し、省電力モードになる。もう一度押すと、通常の状態になる (搭載されているオプションボードによっては、機能しないものもある)。

(7) USBコネクタ

USBインタフェースを持つ装置と接続する。

(8) スタビライザ

装置を安定させるための足。装置を寝かせる場合は閉じることができる (→79ページ)。

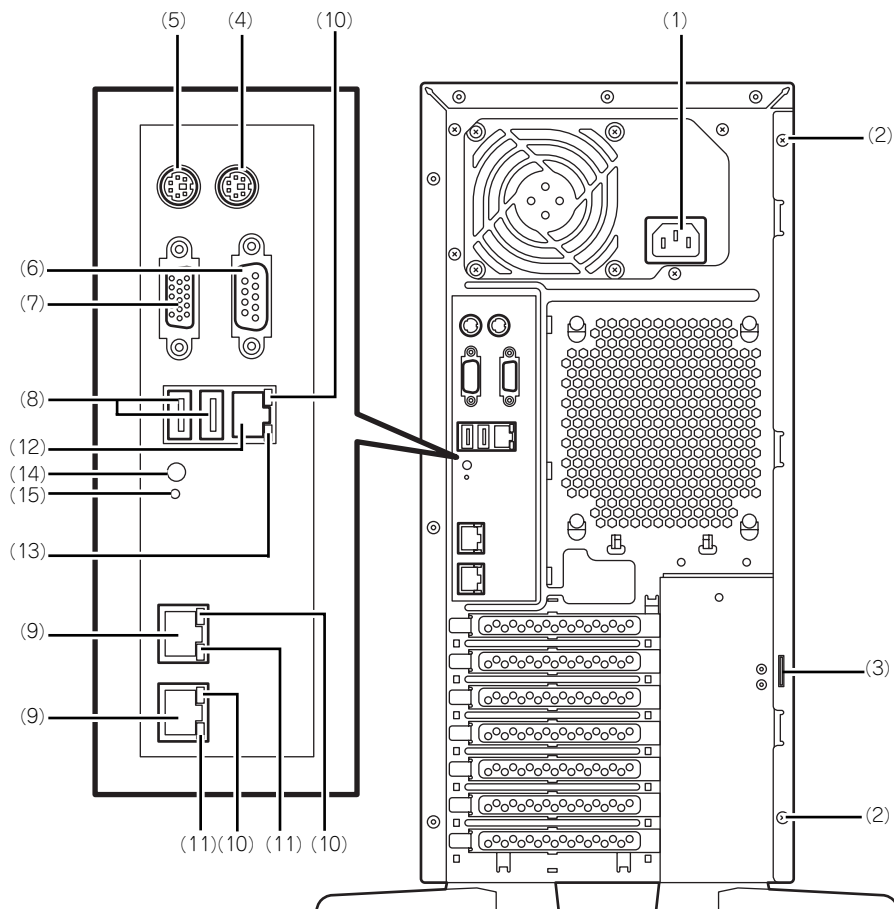
(9) ハードディスクドライブベイ

ハードディスクドライブを取り付ける場所 (→84ページ)。

(10) 3.5 FDドライブベイ

内蔵USB FDドライブ (オプション) を実装する場所。

本体背面



(1) 電源コネクタ

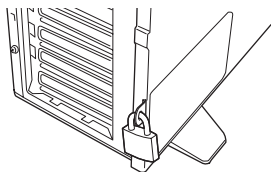
添付の電源コードを接続する (→35ページ)。

(2) 固定ネジ (2個)

左側のサイドカバーを取り外すときに外すネジ (→79ページ)。

(3) 筐体ロック

盗難防止用器具を取り付けることで装置内部の部品の盗難を防止することができる。



(4) マウスコネクタ

添付のマウスを接続する (→32ページ)。

(5) キーボードコネクタ

添付のキーボードを接続する (→32ページ)。

(6) シリアルポートコネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する (→32ページ)。なお、本体標準のシリアルポートは専用線接続は不可です。

(7) モニタコネクタ

ディスプレイ装置を接続する (→32ページ)。

(8) USBコネクタ

USBインタフェースを持つ装置と接続する (→32ページ)。

対応するソフトウェア (ドライバ) が必要です。

(9) LANコネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する
1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応の
コネクタ (→32ページ)。

(10) LINK/ACTランプ

LANポートのアクセス状態を示すランプ (→18ページ)。

(11) 1000/100/10ランプ

LANポートの転送速度を示すランプ (→18ページ)。

(12) マネージメント専用LANポート

100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ (→32ページ)。

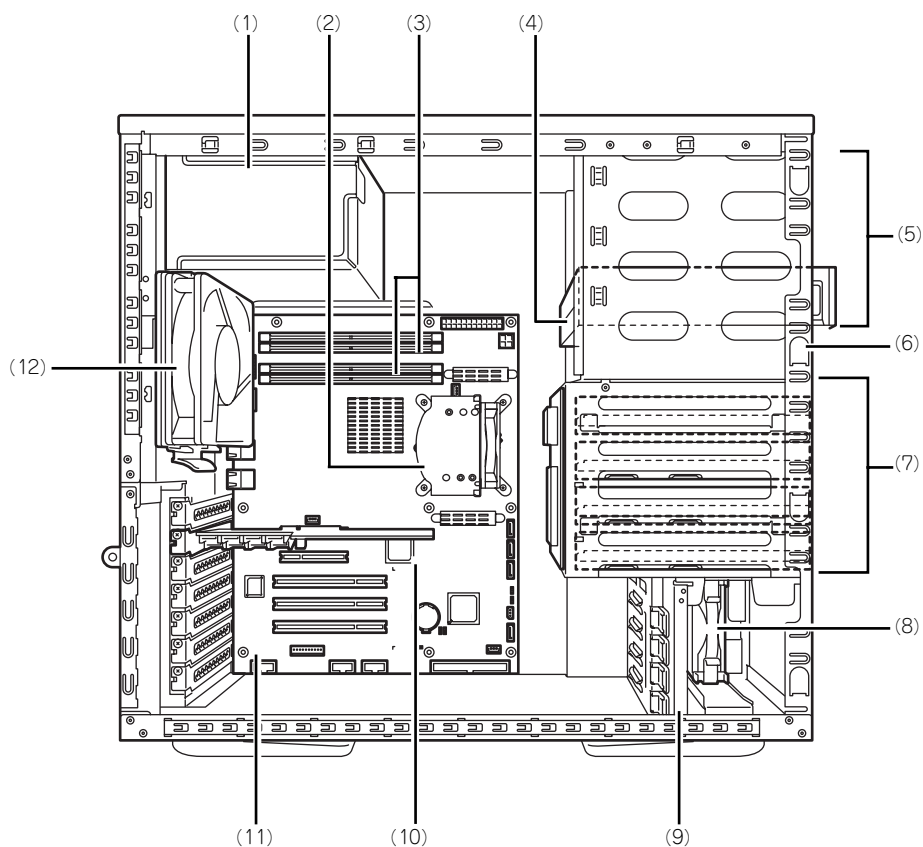
(13) 100/10ランプ

マネージメント専用LANポートの転送速度を示す
ランプ (→18ページ)。

(14) DUMP(NMI) スイッチ (保守専用)

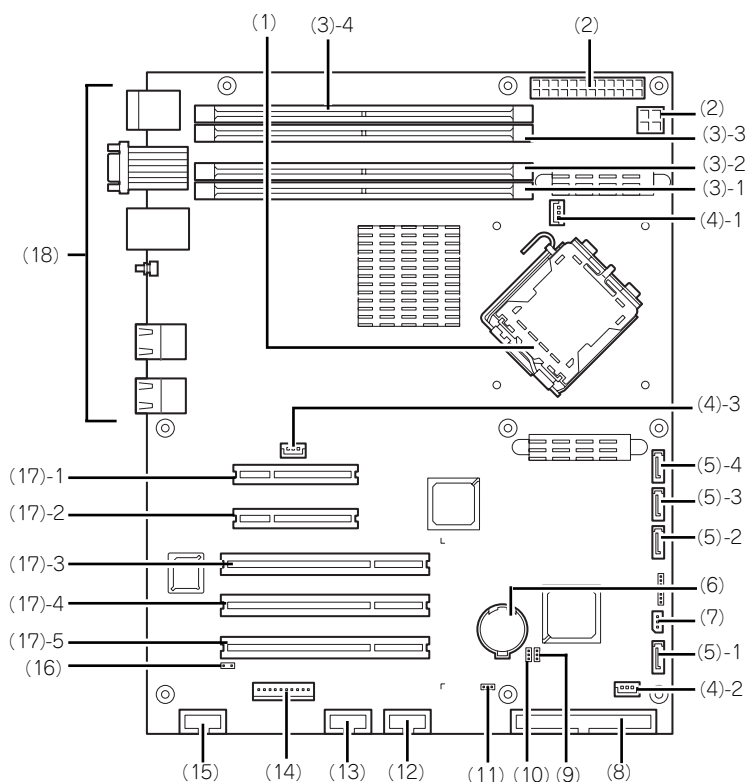
(15) ステータスLED (保守専用)

本体内部



- | | |
|---|--|
| (1) 電源ユニット | (7) ハードディスクドライブベイ (標準で4台実装済み) |
| (2) CPUヒートシンク | (8) 冷却ファン (フロント) |
| (3) メモリ (DIMM) | (9) PCIガイドレール |
| (4) DVD-ROMドライブ | (10) SATA2ディスクアレイコントローラ (PCI#1に標準実装されます) |
| (5) 5.25インチデバイスベイ (下のスロットにDVD-ROMドライブを標準装備) | (11) マザーボード |
| (6) 3.5FDDドライブベイ | (12) 冷却ファン (リア) |

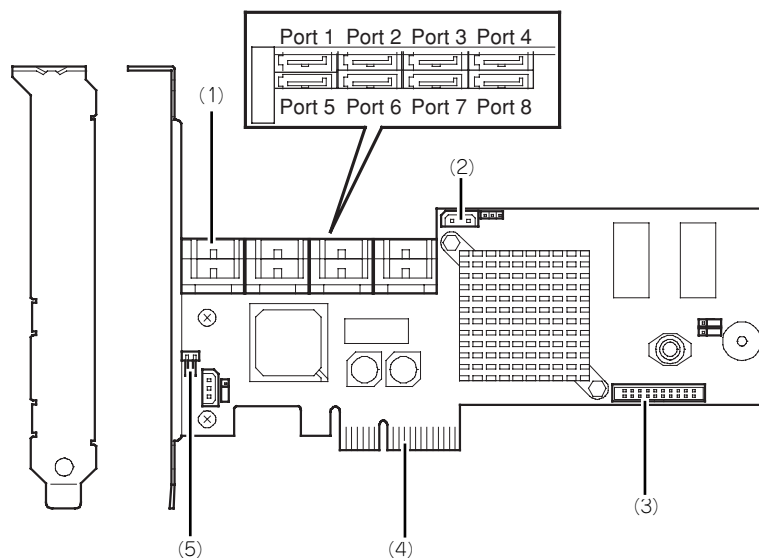
マザーボード



- (1) プロセッサソケット
- (2) 電源コネクタ
- (3) DIMMソケット (末尾の数字はDIMM番号を示す)
- (4) 冷却ファンコネクタ
 - (4) - 1 CPUヒートシンクファン用
 - (4) - 2 フロントファン用
 - (4) - 3 リアファン用
- (5) シリアルATAコネクタ (末尾の数字はDIMM番号を示す)
- (6) リチウムバッテリー
- (7) IPMBコネクタ
- (8) IDEコネクタ
- (9) パスワードクリアジャンパ
- (10) リカバリブートジャンパ

- (11) CMOSメモリコンフィグレーションジャンパ
- (12) フロントUSBコネクタ
- (13) 内蔵USB用コネクタ (オプション)
- (14) スイッチ/LEDケーブル用コネクタ
- (15) シリアルポートBコネクタ (オプション用)
- (16) RAID LEDコネクタ
- (17) PCIボードスロット
 - (17) - 1 PCIe x 8
 - (17) - 2 PCIe x 4(ただしコネクタはx8)
 - (17) - 3 32-bit/33MHz
 - (17) - 4 32-bit/33MHz
 - (17) - 5 32-bit/33MHz
- (18) 外部接続コネクタ

SATA2ディスクアレイコントローラボード



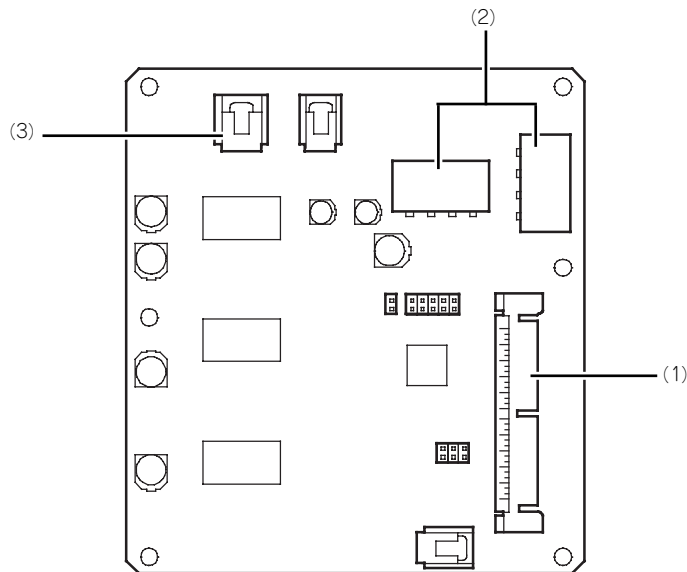
- (1) SATAコネクタ**
SATAケーブルと接続するためのコネクタです。
ポート1～4を使用します。

(2) I2Cコネクタ
I2Cケーブルを接続するコネクタです。

(3) 増設バッテリー用コネクタ
N8103-102 増設バッテリーを接続するためのコネクタです。
- (4) PCIコネクタ (PCI Express対応)**
PCIスロット (PCI Express) に接続するコネクタです。

(5) HDD LEDコネクタ
DISKアクセスランプを点灯させるために、マザーボードと接続します。

SATA2バックプレーン



(1) SATAコネクタ

SATA2ディスクアレイコントローラと接続するSATAコネクタです。

(2) 電源コネクタ (2箇所)

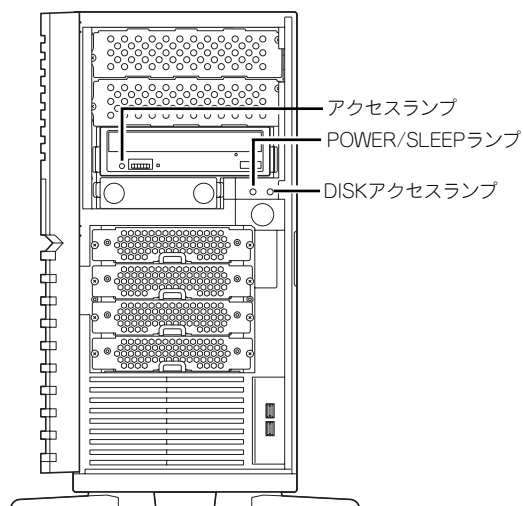
本体装置の電源ケーブルと接続します。

(3) I2Cコネクタ

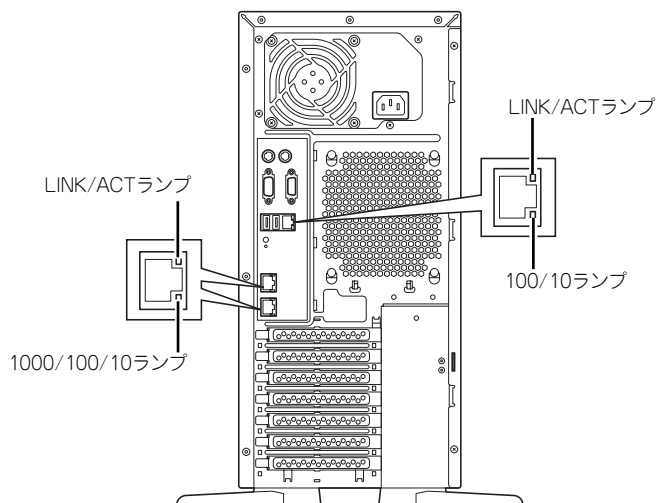
I2Cケーブルを接続するコネクタです。

ランプ表示

本体のランプの表示とその意味は次のとおりです。



本体前面



本体背面

POWER/SLEEPランプ

本体の電源がONの間、緑色に点灯します。

DISKアクセスランプ

DISKアクセスランプは本体内部のハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯します。フロッピーディスクドライブ、DVD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

LINK/ACTランプ

本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、点灯します（LINK）。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します（ACT）。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク（LAN）コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

1000/100/10ランプ

標準装備のLANポートは、1000BASE-T（1Gbps）と100BASE-TX（100Mbps）、10BASE-T（10Mbps）をサポートしています。

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。橙色に点灯しているときは、1000BASE-Tで動作していることを、緑色に点灯しているときは100BASE-TXで動作していることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

100/10ランプ

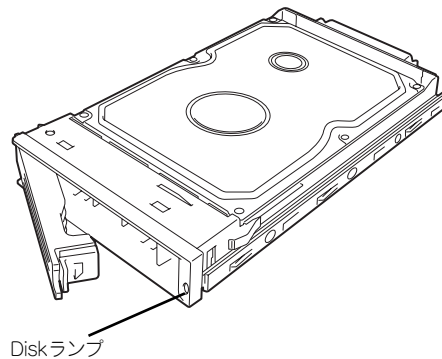
マネージメント用LANポートは、100BASE-TX（100Mbps）、10BASE-T（10Mbps）をサポートしています。

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。緑色に点灯しているときは100BASE-TXで動作していることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

Diskランプ

本装置はホットプラグに対応したSATA2のハードディスクドライブを4台標準で搭載しています。

搭載しているハードディスクドライブにはランプが1つ付いています。その表示と機能は次のとおりです。



- **緑色に点灯・点滅**

ハードディスクドライブに電源が供給されていることを示します。点滅でディスクへのアクセスが行われていることを示します。

- **アンバー色に点灯**

ハードディスクドライブが故障していることを示します。



ディスクアレイ（RAID1、RAID5）を構成している場合は、1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築（リビルド）を行うことをお勧めします（ディスクの交換はホットスワップで行えます）。

- **アンバー色にゆっくりと点滅**

ハードディスクドライブの再構築（リビルド）中であることを示します（故障ではありません）。ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクドライブを交換すると自動的にデータのリビルドを行います（オートリビルド機能）。

リビルドを終了するとランプは緑色に点灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色に点灯します。



リビルド中に本体の電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクドライブをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- 電源をOFFにしないでください（いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません）。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブが存在する場合は、ハードディスクドライブの交換は行わないでください。

基本的な操作

基本的な操作の方法について説明します。

POWER/SLEEPスイッチ（電源のON/OFF）

前面にあるPOWER/SLEEPスイッチで本装置の電源をONにします。電源のOFFはクライアントマシンからリモートデスクトップ接続を使い、シャットダウン操作を行います。

電源のON

電源をONにする場合は、本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押します。
次の順序で電源をONにします。



ここでは、セットアップを完了した後の電源のONの手順について説明しています。導入後のセットアップを始めるときは、「システムのセットアップ」(36ページ)を参照してください。

1. 本体に電源コードが接続されていることを確認する。
2. 本体に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置（UPS）などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

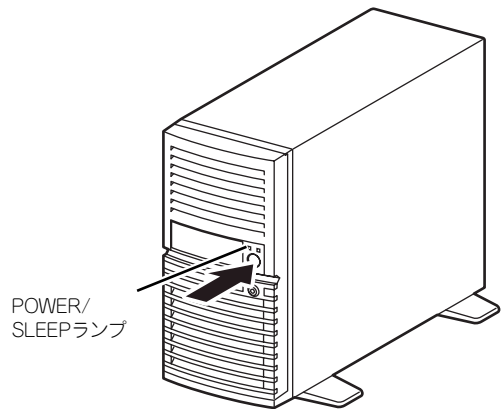
3. フロッピーディスクドライブ、およびDVD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。



- DVD-ROMドライブにブータブルディスク（起動ディスク）がセットされているとそのディスクから起動を始めます。必ずディスクがセットされていないことを確認してください（DVD-ROMドライブの場合は、電源ONの直後にDVD-ROMドライブのスイッチを押してトレイをイジェクトすれば問題ありません）。
- 添付の「iStorage NS47PバックアップDVD-ROM」をDVD-ROMドライブにセットしたまま電源をONするとソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- 添付の「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットしたまま起動するとCD-ROMから起動するため、NASとしてのサービスを起動することはできません。

4. 本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。

本体前面のPOWER/SLEEPランプが緑色に点灯します。



5. クライアントマシンからリモートデスクトップを使って本装置へアクセスできることを確認する。

詳しくは「本装置への接続」(28ページ)を参照してください。

電源のOFF（および再起動）

本装置の電源のOFF(および再起動)を行う場合は、管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続し、スタートメニューからシャットダウン操作および再起動操作を行ってください。

POWER/SLEEPスイッチによる電源のOFF

本装置では、セキュリティの観点から、ログオンしていない状態でのPOWER/SLEEPスイッチを押すことによるシャットダウンは実行できないようになっています。

ネットワーク障害などによるリモートデスクトップ接続でのシャットダウンができない場合の対処として、事前に以下の設定を行い、POWER/SLEEPスイッチによるシャットダウンを有効にしてください（または、本装置にキーボード/マウス/ディスプレイを接続してシャットダウン処理をしてください）。

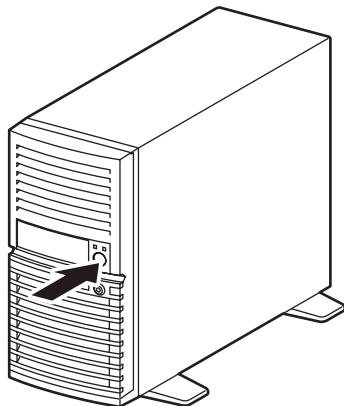
[ログオンしない状態でPOWER/SLEEPスイッチによるシャットダウンを有効にする方法]

1. 管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続する。
2. Administrator権限を持つユーザで本装置にログオンする。
3. リモートデスクトップ内で[スタート]–[すべてのプログラム]–[管理ツール]–[ローカルセキュリティポリシー]を選択する。
4. [shutdown: Allow system to be shut down without having to log on]を[有効]に設定する。

強制電源OFF

「電源のOFF」および「POWER/SLEEPスイッチによる電源のOFF」に示す方法で電源をOFFにできなくなったときに使用します。本体のPOWER/SLEEPスイッチを4秒ほど押し続けてください（またはPOWER/SLEEPランプが消灯するまで押し続けてください）。電源が強制的にOFFになります。電源を再びONにするときは、強制電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。

POWER/SLEEPスイッチ
(4秒以上押す)



フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し（リード）・保存（ライト）を行うことのできるフロッピーディスクドライブが搭載されています。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認してください。

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。

イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。



チェック

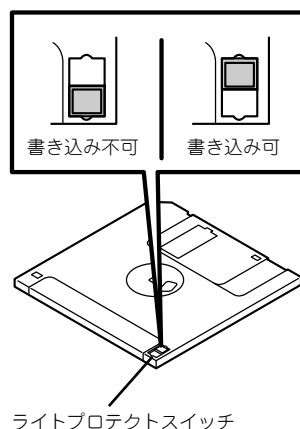
- フォーマットされていないフロッピーディスクをセットすると、ディスクの内容を読めないことを知らせるメッセージやフォーマットを要求するメッセージが表示されます。OSに添付の説明書を参照してフロッピーディスクをフォーマットしてください。
- フロッピーディスクをセットした後に本体の電源をONにしたり、再起動するとフロッピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。
- フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。またその構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。

- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト（書き込み禁止）ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお願いします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。
- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。本体に添付されているフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。



DVD-ROMドライブ

本体前面にDVD-ROMドライブがあります。DVD-ROMドライブは次の場合などに使用します。

- 添付の「iStorage NS47PバックアップDVD-ROM」を使ってソフトウェアを再インストールするとき（180ページ参照）
- 添付の「EXPRESSBUILDER（SE）」CD-ROMを使って本装置を保守するとき（63ページ参照）

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- DVD-ROMドライブの内部を覗かない
- DVD-ROMドライブのトレイを引き出したまま放置しない

ディスクのセット/取り出し



- DVD-ROMドライブに「iStorage NS47PバックアップDVD-ROM」をセットしたまま本体の電源をONにすると（または再起動すると）、ソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- DVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER（SE）」CD-ROMをセットしたまま本体の電源をONにすると（または再起動すると）、CD-ROMから起動し、システムとして使用できません。

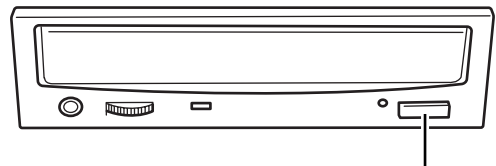
1. 本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. フロントドアを開く。
3. DVD-ROMドライブ前面のオープン/クローズボタンを押す。

トレイが出てきます。

4. ディスクの文字が印刷されている面を上に向けてトレイの上に静かに確実に置く。

5. オープン/クローズボタンを押すか、トレイの前面を軽く押す。

トレイは自動的にドライブ内にセットされます。



オープン/クローズボタン



ディスクのセット後、ドライブの駆動音が大きく聞こえるときは、再度ディスクをセットし直してください。

ディスクの取り出しは、ディスクをセットするときと同じようにオープン/クローズボタンを押してトレイをイジェクトし、トレイから取り出します（アクセスランプが橙色に点灯しているときは、ディスクにアクセスしていることを示します。この間、オープン/クローズボタンは機能しません）。

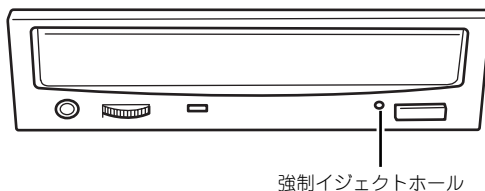
OSからトレイをイジェクトすることもできます。

ディスクを取り出したらトレイを元に戻してフロントドアを閉じてください。

ディスクが取り出せない場合の手順

オープン/クローズボタンを押してもディスクを取り出せない場合は、次の手順に従って取り出します。

1. POWERスイッチを押して本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
2. フロントドアを開く。
3. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）をDVD-ROMドライブのフロントパネルにある強制イジェクトホールに差し込んで、トレイが出てくるまでゆっくりと押す。



- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

4. トレーを持って引き出す。
5. ディスクを取り出す。
6. トレーを押して元に戻す。

ディスクの取り扱い

セットするディスクは次の点に注意して取り扱ってください。

- 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- ディスクを落とさないでください。
- ディスクの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接ディスクに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

本装置への接続

本製品はセットアップが完了したらそれ以降は特に操作しなくても動作可能です。
運用中の管理や設定の変更は、クライアントマシンからリモートデスクトップ接続して行います。

NASマシンの管理を行うクライアントマシンにリモートデスクトップがインストールされていない場合は、事前にリモートデスクトップのインストールを行ってください。
リモートデスクトップは以下からダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=80111f21-d48d-426e-96c2-08aa2bd23a49>

1. クライアントマシン上でリモートデスクトップを起動する。
2. 接続先に、NASマシンのIPアドレスもしくはコンピュータ名を入力する。
3. Administratorでログインする。

ワークグループ環境のパスワードの初期値は、スタートアップガイドを参照してください。

"C:¥Program Files¥Remote Desktop"以外のフォルダにリモートデスクトップをインストールしている場合は以下の設定を行ってください。

初期設定ツールを起動した際に Windows フォルダに生成される "iStorageNSSetup130.ini" というファイルを開き "RdesktopPath" に記述されたファイルパスを正しいリモートデスクトップのインストールフォルダに変更してください。